

# ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人  
**祐愛会織田病院** ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室  
責任者 織田 正道

## 未来を創造する

### 2020年グループ方針

社会医療法人 祐愛会 理事長 織田 正道

いよいよ2020年がスタートしました。

これまで、医療・介護分野を含めた国の社会保障制度改革の議論は、「団塊の世代」が後期高齢者となる「2025年問題」が中心でした。そして時代が「令和」に変わり、2025年が現実に見えてきた現在、議論は「団塊ジュニア」が65歳となり高齢化のピークを迎える2040年を見据えたものになってきました。皆さんは「2040年の日本がどのような状態になるか」想像が出来ますか？ 人口局面では、これからの20年は、後期高齢者人口はほぼ横ばいとなり、「現役世代(生産人口)」が急減することが明らかです。医療・介護分野がどのような状況に置かれるのかは、国が示すロードマップの中で、実現可能性のあると考えられる計画を参考にすることで、ある程度は想像することが出来ます。国は「誰もがより長く元気に活躍できる社会を実現する」として、図に示しているように、現役世代には、①多様な就労・社会参加の環境整備、②医療・福祉サービスの改革による生産性の向上、高齢者には③健康寿命の延

伸、以上三つの政策課題を挙げています。当法人でも①においては、ワークライフバランスやワークシニアリングなど年齢ではなく能力に応じた働き方を積極的に進め、現在50歳〜55歳の職員の皆さんでも20年後も仕事を継続できるような職場環境を整えて行きます。②においては、現在全国に先駆けて進めているICTやAI等を積極的に活用し、医療・介護現場の生産性の向上に努めて行きます。③においては、行政と協力し生活習慣病をはじめロコモティブシンドロームの予防を継続的に取り組みます。このように2040年を見据えての課題を、2020年のグループ方針にも取り入れ、これからの未来を皆さんと共に創造していきたいと思えます。

#### Aging in place

「住み慣れた地域で自分らしく最後まで」の実現をめざし、急性期医療から在宅まで、保健・医療・介護の各分野が、一体的に提供できる総合ケアシステムの構築を、ICT等を活用し進めます」

#### ◎予防分野

「いまでも元気で活躍できるエイジレス社会を築くため、生活習慣病の予防改善、さらにロコモティブシンドロームの予防に継続的に取り組みます」

1. 人間ドック、専門ドック(脳・肺・乳腺ドック)、2次検診へ積極的に取り組み、受診者の1割アップを図る
2. 行政と協力して特定健診特定保健指導の受診率1割アップに努める
3. 糖尿病をはじめとする生活習慣病の予防教室や市民公開講座を恒例化(毎月)する
4. ロコモティブシンドロームやフレイルなど、介護分野との連携を推進し、疾病予防・介護予防等を中心に、総合的な対策を行う

#### ◎医療分野

「急性期機能を充実し、効率的で、質の高い

医療の提供を目指すと共に、退院後もケアの継続が図れるように地域の医療機関や介護サービスと連携して在宅医療を全面的にバックアップします。」

1. 地域に選ばれる病院づくり
- ①急性期機能の充実

○新規入院患者3300名以上の受入れ体制強化

- ・ 救急患者受入れ体制のさらなる強化
- ・ かかりつけ医の連携強化(紹介入院患者増)
- ・ 平均在院日数短縮化に向け入院退院支援調整をさらに強化する
- ・ DCU(Dementia Care Unit)を充実し、成果を示す

- ②地域包括ケアシステムを医療面でバックアップ
- ・ 在宅患者の看取り体制構築を本格化(かかりつけ医と連携し、ACP・人生会議を啓発推進)
- ・ 在宅医療支援体制MBC(Medical Base Camp)を進化させオンライン診療を本格化

- ・ ICTを積極的に導入し、業務改革を図る
- ・ 地域包括ケアシステムを医療面でバックアップ
- ・ 在宅患者の看取り体制構築を本格化(かかりつけ医と連携し、ACP・人生会議を啓発推進)
- ・ 在宅医療支援体制MBC(Medical Base Camp)を進化させオンライン診療を本格化

- ・ 医療と介護情報の一元化共有化する
- ・ 他業種(OPTIM KNOWLEDGE HANDS)などのコラボレーション本格化
- ③医療の質向上を目指して
- ・ TQM(Total Quality Management)推進
- 2. スタッフに選ばれる職場づくり
- ①働き方改革」を本格化

- ・ タスクシフト・タスクシフトなど業務の効率化推進、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める
- ワークライフバランスの更なる推進
- ②看護師特定行為「在宅・慢性期領域」の指定を受ける
- ③クローバルナースの教育育成

3. セイフティーマネジメント(医療安全、院内感染防止)の更なる向上
4. 海外研修の充実

・ Puri Moni Medical Center(ハワイ) 研修プログラムの充実

#### ◎介護分野

「いまでも安心して在宅で暮らしができるように地域包括ケアシステムを全面的にバックアップすると共に高齢者の自律をサポートします」

1. 地域包括ケアシステムの実現
- ①介護老人保健施設における在宅復帰在宅療養支援機能の充実

○回転率10%以上、在宅復帰率50%以上、稼働率95%を維持する

- ・ 地域の医療機関との連携強化
- ・ ショートステイの効率的運営
- ・ 後期高齢者の自律を図り、リハビリ機能の充実を進める

- ②訪問サービスは医療と一体化を推進
- ・ 在宅医療支援体制MBC(Medical Base Camp)と一体化を図る
- ・ 在宅患者の看取り体制構築を本格化(かかりつけ医と連携し、ACP・人生会議を啓発推進)
- ③各事業を機能的に連携する

- ・ 認知症・イサービスの稼働率75%をめざす
- ・ 認知症デイサービス・小規模多機能居宅施設老人保健施設の統括的連携
- ④人材採用育成のための専属部門開設
- ・ 介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修の強化
- ・ コミュニケーション能力の向上・笑顔と挨拶の徹底
- ・ 外国人介護スタッフの教育育成の充実

2. スタッフに選ばれる職場づくり
- ①「働き方改革」を推進本格化
- ・ 業務の効率化推進、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める
- ワークライフバランス(多様な勤務形態)の更なる推進
- ②子育て支援・介護支援の充実
- ③ねむりスキヤンなどICTを本格導入し業務の効率化を図る

3. セイフティーマネジメント(転倒転落防止、院内感染防止)の更なる向上
4. 「ゆうあい社会福祉事業団」の事業見直し

## 2040年の多元的な社会

ゆうあいビレッジ施設長 千々岩 親幸

昨年3月に、地域包括ケア研究会から「2040年・多元的社会における地域包括ケアシステム」(「参加」と「協働」で作る包摂的な社会)が報告されました。報告書では2040年を多元的な社会とし、これからの20年間に私たちの社会が準備しなければならない取り組みを提案しています。これまでの目標年は団塊の世代全員が75歳を超える2025年に設定されて

いましたが、2025年まであと5年となり、その先まで見据える必要性が出てきました。そのため次の目標年を85歳以上の高齢者が1000万人を超える2040年(85歳以上人口は2035年頃に1000万人を超えると予測されています)に設定しています。2040年の多元的な社会とはどのような社会なのか、簡潔にまとめると、「平均的な高齢者像では語れない多様性と格差の時代」「年齢の持つ意味も一元的ではない」「家族介護を期待しない・期待できない」「住まいと地域の多様化」といった言葉で表わされています。多元化する社会で誰も社会的に排除されることなく多様な人々を包み込んでいく社会のことを「包摂的な社会」と

呼び、そのためにはそれぞれの地域の実情をふまえたうえで、そこに住む人たちの「参加」と「協働」が必要になるとしています。

以上のような観点から、高齢者ケアの中心となるサービスとして「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」の3つが挙げられています。これらのサービスは「柔軟な対応ができ、多様な心身状態に対応できるサービス」と評価され、報告書ではこれらのサービスを「包括報酬型在宅サービス」と呼んでいます。小規模多機能型居宅介護は、同一事業者が「通所」(デイサービス)を中心に「訪問」(ホームヘルプ)・「泊まり」(ショートステイ)を一体的に提供するサービスで、報告書ではこのサービスが地域との親和性が高く、地域づくりの拠点とすることを提唱しています。このように小規模多機能型居宅介護サービスは非常に高く評価されているものの、現時点においては介護保険費用総額の2.5%とあまり普及しておらず、その高評価とサービス提供量の乖離が問題と思われれます。



報告書では2040年の社会をイメージし、「これまでの介護サービスは全国共通のサービスと仕組みを基盤としてきたが、今後はいかにして個人・地域の実情に合ったケアとサービスを各地域でデザインしていくかが大きな課題となる」。「介護サービスのデザインを出来高払いによる単品サービスから包括報酬型在宅サービスに転換していき、決められたサービスを決められた時間に一方的に提供するのではなく、利用者と共に生活全体を支えるケアに転換していくことが重要である」と提言しています。

祐愛会は今回の報告書で評価されている「小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」に既に対応しており、これらのサービスをさらに充実させて地域の介護サービスの拠点となるべく今年も努力していきます。

## 「総合診療科が新体制でスタートしました!」

総合診療科部長 織田 良正

新年明けましておめでとうございます。総合診療科部長の織田良正です。2019年4月から総合診療科部長として赴任して早くも新年を迎えました。赴任時におだびたるに掲載した総合診療科での3つの柱「臨床、教育、研究」についてですが、今回は紙面をお借りして「教育」について紹介します。

以前から祐愛会では地域医療実習、研修ということで、たくさんの方、研修医に来て頂いていましたが、昨年4月12月に佐賀大学医学部6年生16名、医学部1年生2名が実習を行い、そして佐賀県・佐賀大学地域医療支援学講座主催の夏期実習で自治医科大学・佐賀大学・長崎大学医学部1〜4年生の合計34名が見学に来てくれました。それ以外にも地域医療研修で初期研修医2名が研修し、学会発表では佐賀大学医学部6年生3名、佐賀大学初期研修医1名が織田病院での症例を発表しました。今年も地域医療実習で佐賀大学医学部5・6年生19名が選択してくれており、初期研修医も5名が研修予定です。

文部科学省は以前から診療参加型実習を推進していますが、「診療参加」をどこまで行うか、



なかなか判断が難しいところでもあります。しかしながら当法人では、先生方、職員の皆さまの協力もあり、研修医はもちろんのこと、学生にも多くの経験をさせて頂いています。毎年、当法人を選択してくれる学生、研修医が増加していますが、実習、研修に携わる皆さまのおかげといつも感謝しています。

実習、研修に関わるなかで、むしろ私自身も学生や研修医の先生方から学ぶことは多く、個人的にも大いに刺激になっています。いずれ地域医療を担う学生、研修医の先生方の教育(というところかもしれませんが)をこれからも楽しみなが頑張りたいと思います。どうぞ引き続き宜しくお願いいたします。

「知って欲しい乳がん検診の大切さ」  
 ～あなたとあなたの大切な誰かを守るため～

検査科 小柳明日香

2019年8月10日(土)、鹿島市エイブルにて「知って欲しい乳がん検診の大切さ」をテーマに市民公開講座が開催されました。乳癌に関心の高い女性を中心にたくさんの方に参加していただきました。なかにはご家族、ご夫婦での参加もみられました。



その後、1980年代を代表するバラエティタレントの山田邦子さんをお迎えし、「大丈夫だよ、がんばろう!」というテーマで特別講演をしていただきました。山田邦子さんは2007年に両側乳癌が見つかり、手術を受けられています。ご自身の闘病体験を交えながら、乳がん検診受診・早期発見の重要性をお話していただきました。参加された会場の皆さん、特に同じ病氣と戦っておられる方々に元気を届けようと、一緒に四季の歌を歌い、時にはものまねやギャグを交えて、笑いの絶えない講演をしていただきました。最後に御自身で作詞された「しあわせの青い鳥」を素敵な歌声で披露され、涙を流して聞き入っている方もおられました。

講演終了後には、体験コーナーとして別室に乳房触診モデルを設置しました。当院の保健師の指導で、どのように自己触診を行えばいいのか、しこりがあったときにはどのように触れるのか、多くの方に体験していただきました。来



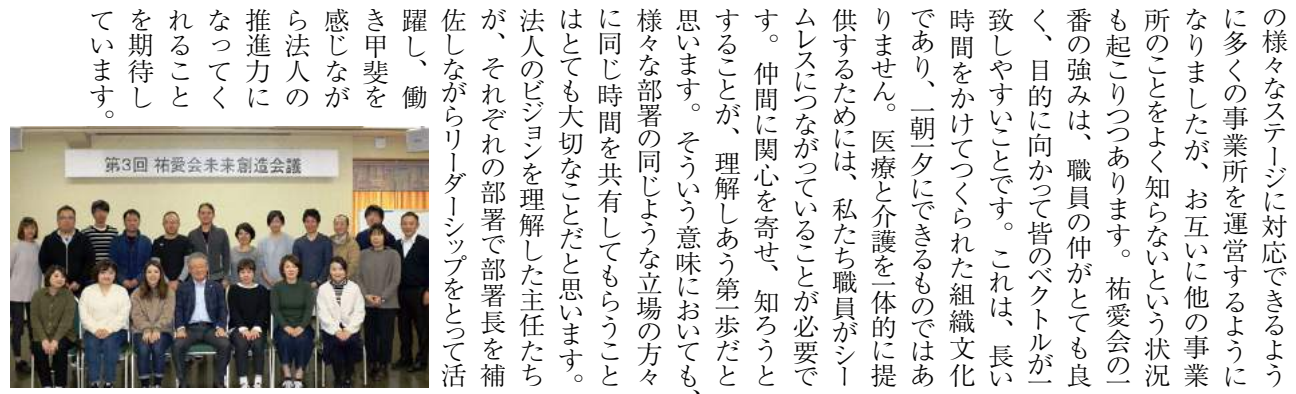
場された方からは「楽しかったです!」「とても勉強になりました」などのお声をたくさんいただきました。

乳癌は、日本人女性が一番かかりやすい癌であり、乳癌で死亡する女性の割合も年々増加傾向にあります。また、他の癌より若い年代から注意が必要です。しかし、乳癌は自分で発見することができ、早期に発見できれば、高い確率で救命できる病気でもあります。今回の公開講座をきっかけに、多くの方々の乳がん検診に対する意識が高まれば幸いです。

第三回 祐愛会未来創造会議 開催  
 院長 伊山明宏

令和元年12月7-8日、武雄温泉ハイツにて宿泊研修を行ないました。今回は、織田病院から6人、ゆうあいから7人、計13人の主任・チャレンジャーたちに集ってもらい、7人の法人幹部がタスクフォースとなつて、法人のあるべき未来について一緒に話し合いました。3年前から継続しているこの宿泊研修は、各部署から集まってもらった中堅職員

の様々なステーションに対応できるように多くの事業所を運営するようになりましたが、お互いに他の事業所のことをよく知らないという状況も起こりつつあります。祐愛会の一番の強みは、職員の仲がとてどもく、目的に向かって皆のベクトルが一致しやすいことです。これは、長い時間をかけてつくられた組織文化であり、一朝一夕にできるものではありません。医療と介護を一体的に提供するためには、私たち職員がシームレスにつながっていることが必要です。仲間に関心を寄せ、知ろうとすることが、理解しあう第一歩だと思います。そういう意味においても、様々な部署の同じような立場の方々に同じ時間を共有してもらおうことはとても大切なことだと思います。法人のビジョンを理解した主任たちが、それぞれの部署で部署長を補佐しながらリーダーシップをとって活躍し、働き甲斐を感じながら法人の推進力になつてくれることを期待しています。



第3回 祐愛会未来創造会議

## 第2回 看護師特定行為終了式



令和元年10月21日看護師特定行為研修2期生5名は、無事修了式を迎えることができました。皆がそろって修了式を迎えることができたのも、伊山院長をはじめ担当の先生方や、市丸教育師長、1期生の方々のたくさんのご指導や温かい励ましのおかげだと心から感謝しております。

一昨年の10月の開校式の後、各人、期待をもって研修に参加しました。11月～4月は、共通科目として、医療安全学、フィジカルアセスメント、臨床病態生理学、臨床推論などを、演習や実習を通して学びました。フィジカルアセスメントの実習では、これまでの身体診察方法が適切ではなかったこと、正しい診察方法を学ばなければ正しい観察や診断へと繋がらないことを痛感し、適切に身体所見

をとる訓練を繰り返し行い、技術の習得に励みました。また、患者の訴えから様々な鑑別診断を、臨床推論の技法を用いて考える方法を学びました。グループワークでは、疑問に思ったことを問題が解決するまで調べたり、質問し合ったりして、夜遅くまで活発な意見交換をしたことが印象に残っています。

5月からは、区分別科目の術後疼痛関連の研修が始まり、手術室実習を始め、多職種協働実践やインフォームド・コンセント、臨床場面における倫理問題などについて学びを深めました。また、自分

たちで、硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整を行う上での手順書の作成を行いました。区分別科目修了試験(OSCE)は、とても緊張しましたが、これまで学んだ事を活かして、無事、合格することができました。

修了式を終え3ヶ月が経ち、まずは1期生と協力し、手順書もとに実際の患者での術後疼痛管理を積極的に行っています。行った際は、主治医への報告と振り返りを行うことで、自らのレベルアップと術後患者のQOL向上を目指しています。また、自分が研修で学んだことを他のスタッフに伝達

4階病棟 川下勝利

することや、状態が気になる患者の元へ積極的に足を運び異常の早期発見ができるようになることを意識して日々の看護に取り組んでいます。以前に比べ、「状態が気になる患者さんがいるので、一緒に見てもらっていいですか」というスタッフからの声が増え、一緒に身体診察やフィジカルアセスメントを行うことで実地教育にもなっています。

最後に、看護の視点を忘れず、特定行為研修で学んだことを活用しながら、これまで以上に患者さんに寄り添っていかねばならないと考えています。研修に参加させていただき、ありがとうございました。



## 市民公開講座「多職種から学ぶ褥瘡サポート」

管理栄養士 瀨 明子



幅が広がった」「一人一人にあったケアが必要だと感じた」「ポジショニングが勉強になった」などの意見を頂きました。

褥瘡のある患者様や発生リスクのある患者様は、入院中のケアを退院後も継続していくことが大切です。施設に転院する患者様だけでなく、在宅ケアに移行もされる方も増えている現在、医療スタッフに限らず地域住民の方々とも褥瘡に関する知識を共有していくことが、発生を抑え早期治癒に繋がると考えます。

今後も褥瘡予防啓発活動を継続し、地域の方々のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。

デクビタス委員会では令和元年10月3日、鹿島市エイブルにて「多職種から学ぶ褥瘡サポート」と題し市民公開講座を開催しました。近隣施設の医療・介護従事者及び、一般市民の方々約300名のご参加をいただきました。

皮膚科西先生より「褥瘡の診断について」、形成外科坂田先生より「褥瘡の評価と治療」、野田皮膚・排泄認定看護師より「褥瘡予防のためのスキンケア」、本村理学療法士より「拘縮が強い方の褥瘡予防」、瀧より「褥瘡と栄養」の各専門分野について講演を行いました。講演後のアンケートでは「わかりやすく日々の活動に活かしたい」「褥瘡に対する知識が深まり



# インターンシップを終えて

経営企画室 安部 伸和

9月から10月にかけて鹿島市内の中学校・高等学校のインターンシップを行い、近隣の中学2年生と高校2年生、総勢44名の応募を頂きました。

インターンシップでは、参加して頂いた中学生、高校生の希望に沿って、看護師、理学療法士、事務などの多職種に分かれて当院スタッフと同じユニフォームを着用し、病院の雰囲気や仕事を体験してもらいました。

その姿勢に私たちも初心を思い出し新鮮な気持ちになりました。体験後は、「医療の現場を知ることができて良かった。」「数多くの職種があり、勉強になった。」など前向きな感想をたくさん頂きました。医療現場で患者様に接することがなかった生徒からも「看護師を目指します。」「この病院で働いてみたい。」など嬉しい意見も頂きました。

だ経験が少しでも今後の参考になれば幸いです。さらに将来、インターンシップに参加して頂いた生徒さんの中から、医療・介護の道を選択し、同じ仲間として地域医療・介護に貢献して頂く方が出ますとこれ以上の喜びはございません。改めて参加して頂いた生徒さん、そしてインターンシップに協力してくれたスタッフの皆様、本当にありがとうございます。これからも引き続き宜しくお願い致します。



西部中学校2年生



太良・青陵中学校2年生



鹿島高等学校2年生

## クローズアップ

### 勤続40年 緒方房子さん



勤続40年を迎えられ、現在も現役で理事長秘書としてご活躍中の大先輩の緒方さんに、入職当時のことや、長く仕事を続けられる秘訣などインタビューをしました。

質問1. 織田病院に入職したのは何年ですか？

昭和56年7月です。

質問2. 入職当時の織田病院はどんな感じだったでしょうか？

職員寮もあり、仕事はもちろん、休日はキャンプに行ったりしてチームワーク抜群でした！

質問3. 当時はどんな仕事をされていましたか？

事務職でしたが、受付から看護、検査、給食の補助等、病院での業務全般をしていました。現在での総合職です。

質問4. 織田病院のいいところは？

地域のニーズに対し医療・介護一体で前進しているところ。病院機能評価日本一を職員一丸となって取得したこと。

質問5. 長く仕事を続けられる秘訣は？

どんなに仕事がいへんな時でも、福利厚生がきちんとしているから仕事のオンとオフがはっきりと区別でき、また仕事頑張ろうという気持ちになれます。たまに息抜きすることが長く続けられる秘訣です。

質問6. 後輩達に向けて何かメッセージをお願いします。

困難にぶつかった時、それをポジティブに捉えチャンスに変換できる気持ちが大切です。

# 新成人おめでとう

- ①成人を迎えた感想は
- ②成人になってやってみたいことは
- ③自己PR



織田病院  
平川 大晴(3階病棟)

①もう20歳か、早かったなあと感じております。成人式を終え病院から記念品を頂き、周りからも祝福され成人になったのだというウキウキの感情が徐々に上がっている感じがしています。成人となり最初の難関として2月に准看護師資格試験があります。看護師という目標に近づけるよう頑張りたいと感じております。

②お酒も飲めるようになったので、友人とお酒を持ち寄ってキャンプとか行ってみたいと思っています。しっかり大人として楽しんで行きたいです。勉強もしていきたいです。

③2月に准看護師資格試験があるので合格に向け、勉強している所なので頑張ります。サッカーや釣りなど何でも好きです、なにかありましたら宜しくお願いします！ありがとうございます。



織田病院  
松田 蓮(3階病棟)

①支えてくださる周りの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

②今まで行った事のないところへ、たくさん旅行に行きたいです。

③仕事や勉強を一生懸命頑張ります。これから宜しくお願いします。



ケゴートゆうあい  
川久保 翼(1階療養棟)

①成人を迎えても今まで通り自覚を持って行動し、他の人に迷惑をかけずに考えて行動したいと思えます。

②一人になったのでボランティア活動に参加してみたいです。

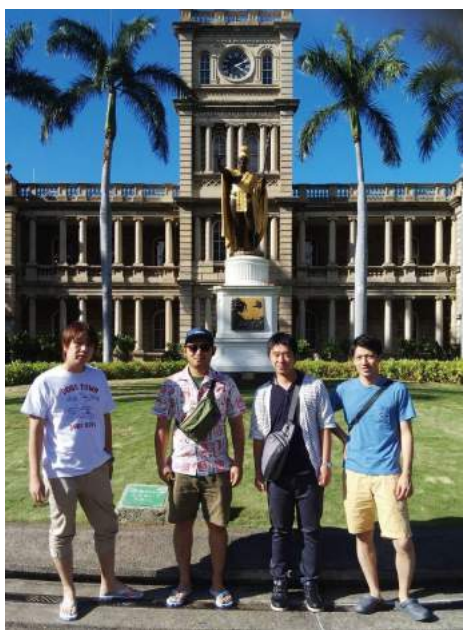
③介護士としての自覚を持ち利用者に寄り添い先輩方から認めてもらえるように努力し、いつも笑顔で頑張りたいと思うのでこれからも応援よろしくお願いします。

## 「ハワイ研修での学びと遊び」

織田病院3階病棟看護師の井手大樹です。今回わたしはハワイ研修に参加させてもらい、そこで多くの学びと、ハワイの楽しさや厳しさを体感してきました。

まず学びについて、研修2日にアメリカの看護師の方から Nurse Practitioner(NP)の仕事内容や役割について講義を受けました。NPは1965年にアメリカで始まった制度で、現在約25万人のNPが自律的に活動し、今日のアメリカの医療を支える上でなく

てはならない存在になっていくそうです。アメリカのNPは患者の状態・病態へのアセスメントを中心に行っており、患者の身体にどんなことが起きていっているのかを常に考えながら業務を行っており、日本でもナースプラクティショナー(診療看護師)が活躍していますが、その役割の違いに大いに驚きました。午後は姉妹病院であるバリモミメディカルセンターの施設を見学しました。がんセンターの見学を行いました。その場でみた患者さん達に不安の表情はみられず、みなさん穏やかに治療を受けていました。充実した施設や医療者との信頼関係が出来ているのだと感じました。ただ救急外来(E.R)の見学が出来なかったことはとても残念でした。次に遊びについて報告



看護師 井手 大樹

します。理事長・洋子先生にマジックデイナリーショーに誘って頂きました。初めて見た生のマジックのスケールの大きさに、アメリカを感じる事ができました。また、ひとつひとつのマジックには目を見張るものがあり、アメリカンジョークは今年のM-1のミルクボーイ以上に面白く、本当にあつという間に時間が経っていました。マジックだけでなく、デイナリーもとても美味しく、大満足の時間を過ごしました。翌日はダイヤモンドヘッドに登頂したり、カメハメハ像やこの木なんの木で有名な日立の本などを見学したり、様々な観光名所を巡りました。さらにアウトレットやアラモアナショッピングセンターでの買

い物も時間をかけてゆっくりと見てまわることができました。現地の人との会話では思った以上に日本語が伝わらず、飲食店での食事ではカタコトの英語でなんとか切り抜けました。

ハワイに滞在中に宿泊していたホテルから見えるオーシャンビューは、今後認知症になってD-CUに入院したとしても忘れることはないと思うほど、感動的でした。感動しすぎて一番多く写真を撮ったと思います。

最後になりますが、今回海外の病院や文化を見学する貴重な機会を頂き、本当にありがとうございます。本当に素晴らしい経験でしたので、まだ研修をしていない皆さんもぜひチャンスがあれば参加をお勧めします！



# 学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(2019年)

## (医 師)

### 【学会(研究会)発表】

- 「寝たきり度・認知度を用いた転倒転落予測スコアの検証」  
 ・WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019 (5月15・16・17・18日、国立京都国際会館)  
 Shun Yamashita, Tomoyo M Nishi, Naoko E Katsuki, Masaki Tago, Shu-ichi Yamashita  
 「The relationship between parts of abdominal pain and causative organ. The prospective observational study.」
- ・第10回日本プライマリケア連合学会学術大会in京都 (5月17～19日 国立京都国際会館)  
 シンポジウム4: 「病院総合医養成の制度構築を考える(委員会企画)」シンポジスト: 山下駿ら  
 未来研究リーダー人材育成プロジェクト報告会: 山下駿、多胡雅毅「腹痛部位と診断される疾患との関係」  
 西知世、織田良正、松藤則子、多胡雅毅、山下秀一  
 「汎下垂体機能低下症、末梢神経障害、低酸素血症を呈した血管内リンパ腫の一例」
- ・第325回日本内科学会九州地方会 (5月18日 長崎大学医学部)  
 小野航平、織田良正、平田理紗、徳島圭宜、藤原元嗣、相原秀俊、多胡雅毅、山下秀一  
 「腎筋跛行を呈した左上腎動脈閉塞症の1例」
- ・第43回佐賀総合診療ケースカンファレンス (5月22日 ガーデンテラスホテル&マリトピア)  
 中山翔太「当院で経験した嚥下障害の一例」  
 中山翔太「帯状疱疹痛の症例」
- ・ACP日本支部年次総会・講演会2019 (6月8日・9日 京都大学百周年時計台記念館・国際科学イノベーション棟)  
 Shota Nakayama, Masaki Tago, Shun Yamashita, Motoshi Fujiwara, Naoko Katsuki, Masanori Nishiyama, Shu-ichi Yamashita: 「Disseminated Pasteurella multocida infection: an astonishing and unexpected cause of pyogenic spondylitis developed following septic shock」
- ・第32回日本疼痛漢方研究会学術集会 (7月6日 ベルサール汐留)  
 中平圭「当科での1年間の帯状疱疹痛に対する内服処方への検討」
- ・第17回日本乳癌学会 (7月11～13日 京王プラザホテル、新宿NSビル)  
 中村淳、田中太、大高和真、佐藤健、伊山明宏「妊婦の副乳に生じた肉芽腫性乳腺炎に対して出産後に外科的切除を施行した1例」
- ・第21回日本医療マネジメント学会学術総会 (7月19・20日 名古屋国際会議場)  
 山下駿、織田良正、多胡雅毅、織田正道「高齢者自宅の室温の現状と室温管理の有効性」
- ・第110回九州・沖縄形成外科学会学術集会 (7月20日)  
 坂田憲亮「胸鎖関節に感染が及んだ開心術後縦隔洞炎2例の治療経験」
- ・Samsca Heart Forum 2019 in Fukuoka (9月7日 ホテルニューオータニ博多)  
 織田良正「プライマリーでの急性心不全診療連携」
- ・第19回日本病院総合診療医学会総会in佐賀 (9月14・15日 佐賀市文化会館)  
 山下駿、相原秀俊、香月尚子、多胡雅毅、山下秀一「原因不明の急性僧帽弁閉鎖不全症と播種性血管内凝固を呈

- ・日本内科学会第324回九州大会 (1月12日 九州大学医学部百年講堂)  
 中山翔太、松藤則子、山下駿、山口りか、西山雅則、多胡雅毅、山下秀一  
 「Pasteurella multocidaによる敗血症性ショックに化膿性脊椎炎を合併した一例」
- ・第15回日本消化管学会総会学術大会 (2月2日 佐賀市ホテルグランではがくれ)  
 松永圭司、岡本憲洋、坂田奈津子「当院での止血困難例の検討」  
 岡本憲洋、小山孝則、坂田奈津子、松永圭司「地域医療機関での大腸がんイレウスに対する安全な腸管減圧に向けての取り組み」
- ・第18回日本病院総合診療医学会総会 (2月14～16日 沖縄科学技術大学院大学OIST)  
 織田良正、山下駿、徳島圭宜、香月尚子、相原秀俊、藤原元嗣、多胡雅毅、山下秀一  
 「祐愛会織田病院の熱中症予防の取り組み～高齢患者の特徴を不快指数から検証する～」  
 山下駿、松永圭司「明日はわが身。やっぱり怖い女性の急性腹症」  
 中島知太郎、山下駿、徳島緑、香月尚子、多胡雅毅、山下秀一  
 「感染性心内膜炎診療における総合診療科の役割」  
 シンポジウム4: 「総合病院の総合診療科 どうすれば?」演者: 井村洋、司会: 山下駿、江本賢
- ・第48回日本慢性疼痛学会 (2月15・16日 じゅうろくプラザ(岐阜市文化産業センター))  
 中平圭「高齢者の三叉神経痛に対して漢方薬の併用によりカルバマゼピンの減量に成功した症例」
- ・第11回佐賀乳腺フォーラム 当番世話人 (2月22日マリトピア)  
 中村淳 (座長)
- ・第16回 日本乳癌学会九州地方会 (3月2～3日 沖縄コンベンションセンター)  
 中村淳、田中太、大高和真、佐藤健、伊山明宏  
 「肝転移を伴うStage IV乳癌に対し内分泌療法のみで長期生存が得られている1例」  
 田中太、中村淳、大高和真、佐藤健、織田良正、伊山明宏  
 「心タンポナーデ、食道狭窄をきたした再発乳癌の1例」
- ・第9回地域医療教育研究会 (4月20日 佐賀大学医学部)  
 吉岡瑞姫、織田良正、西知世、中山翔太、山下駿、西山雅則  
 「地域から未来の医療・介護を発信する」
- ・第12回日本臨床外科学会佐賀県支部学術集会 (4月24日マリトピア) 優秀演題賞受賞  
 田中太、中村淳、大高和真、佐藤健、岡本憲洋、伊山明宏「大動脈人工血管が消化管に迷入した一例」
- ・第116回日本内科学会総会・講演会 (4月27日 ポートメッセなごや)  
 山下駿、徳島緑、香月尚子、多胡雅毅、山下秀一「当院の感染性心内膜炎74症例の後方視的検討」  
 多胡雅毅、香月尚子、織田良正、相原秀俊、山下秀一

- 岡4階国際会議場)  
織田正道「ポスト2025年に向けて各病院は如何にソフトランディングを図るのか」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(3月4・5日)  
織田洋子「人体のしくみ働きー皮膚科」
  - ・第18回北海道病院学会(3月6日 函館国際ホテル)  
織田正道「地域医療構想調整会議の現状と、これから」
  - ・第33回鹿島市みんなの集い(3月10日 鹿島市民会館)  
織田良正「生き生き元気、健康に過ごす秘訣」
  - ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(3月13・14日)  
織田洋子「科目：人体のしくみと働き(感覚器系・皮膚科)疾病の成り立ち(感覚器系・皮膚科)」
  - ・日経ヘルスケア医療マネジメントセミナー2019Winter(3月17日 秋葉原コンベンションホール)  
織田正道「地域医療構想に病院はどう対応すべきか」
  - ・日本大学医学部同窓会定時総会(4月14日 日本大学病院 5階大会議室)  
織田正道「ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化」
  - ・医療関連サービス振興会月例セミナー(4月17日 日比谷コンベンションホール)  
織田正道「ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化」
  - ・Otsuka Live on Nutrition Seminar(5月14日 大塚製薬東京本社)  
織田正道「地域循環型医療における急性期病院の役割～治し支える医療と栄養管理～」
  - ・全日本病院協会 支部長・副支部長会(6月15日 ホテルグランドパレス3F「白樺」)  
織田正道「地域医療構想について」
  - ・津久見中央病院病診連携講演会(6月21日 大分県津久見市)  
織田良正「治す医療から治し支える医療への転換」
  - ・日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 社内勉強会(6月26日 東横イン佐賀会議室)  
山下駿「パラダイムシフトによる今後の日本の医療の変化×多職種で支える未来」
  - ・佐賀県立総合看護学院(6月27日)  
西山雅則「地域医療と高齢者保健指導」
  - ・地域医療を考える会2019(6月28日 キャッスル真名井(石川県))  
織田正道「地域医療構想と調整会議の現状とこれから」
  - ・全日本病院協会長野県支部(6月29日 JA長野県ビル12階D会議室)  
織田正道「地域医療構想の現状とこれから」
  - ・全日病徳島県支部研修会(7月3日 徳島県医師会4階研修室・ホール)  
織田正道「地域医療構想と地域包括ケアシステム」
  - ・医療人キャリアデザイン(7月4日 佐賀大学医学部講義棟)  
織田良正「大学1年生の自分へ」
  - ・第19回ゆうあい公開セミナー(7月5日 鹿島市生活生涯学習センターエイブル)  
山下駿、織田良正「熱中症 ～あなたの家は大丈夫!?～」
  - ・第18回北海道病院学会シンポジウム(7月6日 ホテルロイトン札幌)  
織田正道「ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化」
  - ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(7月10・17・24・31日、8月28日、9月11日、10月28日)  
廣津辰美「人体のしくみと疾病の成り立ち～脳神経系～」
  - ・2019年度「全日本病院協会総合医育成プログラム」医療

- し、弁置換術により診断できた感染性心内膜炎の一例」
- 久田祥雄、中村知太郎、西知世、織田良正、多胡雅毅、山下秀一「生前の診断に難渋したハイデンハイン型ブリオン病の一例」
- 中山翔太、松永圭司「嚥下障害のみを呈したワレンベルグ症候群の一例」
- 中山翔太、朝長元輔、多胡雅毅、山下秀一「なぜあのとき……。様々なマイ明日により急性心筋梗塞に気づかず不幸な転帰をたどった一例」
- 水田一椰、織田良正、西知世、中山翔太、山下駿、西山雅則「えっ、虫垂炎って右下腹部痛じゃなかったの?～左下腹部痛で発症した急性虫垂炎の一例～」
- ・第42回佐賀救急医学会(9月21日 肥前精神医療センター)  
松尾祐里、織田良正、大場健太、西知世、中山翔太、山下駿、西山雅則  
「閉塞性尿路感染症を契機に意識障害を来した1例」
- ・第61回全日本病院学会指定演題(9月28日 名古屋国際会議場)  
織田良正「織田病院でのタスクシフト & タスクシェアの実際」
- ・第61回全日病学会in愛知(9月28・29日 名古屋国際会議場)  
織田良正、久野悠一郎「深層学習より判明したMBC(Medical Base Camp)が在院日数、再入院に与える影響」
- ・第29回日本耳鼻科学会総会・学術講演会(10月10・11・12日 山形テルテルホテルホリタン山形)  
岡村誠司、西嶋利光、小宗静男、織田正道  
「短期間で両側の末梢性顔面神経麻痺(Bell麻痺)と突発性難聴をきたした1例」
- ・第114回日本消化器病学会九州支部例会in宮崎(11月8・9日 シーガイアコンベンションセンター)  
坂田奈津子、岡本憲洋、松永圭司「二次性大動脈腸管瘻による人工血管の腸管内迷入の1例」
- ・第81回日本臨床外科学会総会in高知(11月14～16日 ザクラウンパレス新阪急高知ほか)  
中村淳、中村宏彰、大高和真、佐藤建、米満伸久、伊山明宏「高齢者葉状腫瘍に浸潤性乳管癌を合併した1例」
- 中村宏彰、中村淳、田中太、佐藤建、伊山明宏「レンバチニブ内服中に発症したS状結腸憩室穿孔とその後の難治性瘻孔に対して腹腔鏡下に治療し得た1例」
- 田中太、中村淳、佐藤建、伊山明宏「大動脈人工血管が消化管に迷入した1例」
- ・第44回佐賀総合診療ケースカンファレンス(11月20日 ガーデンテラスホテル&マリトピア)  
中山翔太「帯状疱疹後神経痛について」
- ・第四回難聴・めまい懇話会(12月12日 ホテルニューオータニ天山の間)  
小宗静男「根治術耳における耳内トラブルへの対処方法」
- 中根知子、岡村誠司、西嶋利光、小宗静男、織田正道  
「当院ABR検査の現状報告」
- 西嶋利光、岡村誠司、小宗静男、織田正道「鼓室形成術後に発症したアスペルギルス症の1例」
- 岡村誠司、西嶋利光、小宗静男、織田正道「耳硬化症術後の高度感音難聴2症例」
- 小宗静男、岡村誠司、西嶋利光、織田正道「術後のコルメラ変位による聴力低下について」

## 【講演・講義】

- ・総合メディカル医業経営セミナー(3月3日 アクロス福



「治し支える医療」への転換を本格化」

- ・ COPD講演会 (12月9日 ガーデンテラス佐賀ホテル& マリトピア)  
山下駿「総合診療科医師が見分けるCOPDの診断と治療」

## 【論 文】

- ・ 一般財団法人 医療関連サービス振興会 振興会通信 June2019 vol.159  
織田正道「ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化」
- ・ 株式会社財界研究所 「季刊」監事 2019 4月号 No.006  
織田正道 少子超高齢時代に地域医療を担う病院の役割 (1)  
— ICTを活用して「治し支える医療」への転換を本格化—
- ・ (週間) 病院新聞 2019年(令和元年)5月16日  
織田正道 医療関連サービス振興会セミナーにて 在宅医療・ケアの活動を紹介
- ・ 日経BP社 日経ヘルスケア 2019 5月号 No.355  
織田正道 地域医療構想に病院はどう対応すべきか
- ・ 株式会社財界研究所 「季刊」監事 2019 7月号 No.007  
織田正道 少子超高齢時代に地域医療を担う病院の役割 (2)  
— ICTを活用して「治し支える医療」への転換を本格化—
- ・ 医学書院 病院 6月号 Vol.78 No.6 2019 June  
織田正道 「治し支える医療」を地域で叶える仕組みづくり
- ・ (一社) 佐賀県医師会 医界佐賀 令和元年7号 No.1149  
織田正道 医師の働き方改革への対応—各医療機関における緊急的な取組み—
- ・ 医学書院 病院 10月号 Vol.78 No.10 2019 October  
織田正道 原崎真由美 地方の中小病院に求められる看護職の育成
- ・ 特定非営利活動法人 北海道病院協会 HOKPITAL 会報第64号 2019年12月号  
織田正道 第18回北海道病院学会 ダイジェストレポート ディスカッション ～地域医療を今後どう考えていくべきか
- ・ Akihiko Ogushi, Takashi Sugioka, Masanori Nishiyama: Thoracolithiasis. Journal of General and Family Medicine 20(3), 122-123, 2019.
- ・ Masato Tago, Shota Nakayama, Shun Yamashita, Yoshimasa Oda, Masanori Nishiyama, Shuichi Yamashita: Disseminated Pasteurella multocida infection: an unexpected cause of pyogenic spondylitis after septic shock. JHGM 50-52, 2019.
- ・ Megumi Hara, Yusuke yakushiji, Kohei Suzuyama, Masashi Nishihara, Makoto Eriguchi, Tomoyuki Noguchi, Masanori Nishiyama, Yusuke Nannri, Jun Tanaka, Hideo Hara: Synergistic effect hypertension and smoking on the total small vessel disease score in healthy individuals: the Kashima scan study. Hypertens Res. 2019; 42: 1738-1744.
- ・ 織田良正、徳島圭宣、峰松優希、牧尾征二郎、多胡雅毅、山下秀一  
「超高齢者の壊死性筋膜炎に対して下肢切断術を行った」

運営コース

- (7月14日 全日本病院協会 大会議室)  
織田正道「病院医師を取り巻く状況①—地域医療構想と医療計画—」
- ・ 鹿島市ファミリーサポーター講習会2019 (7月14日 鹿島市民交流プラザ)  
織田良正「こどもの便秘にご用心！」
- ・ 銚子地区地域連携の会 (7月26日 千葉県銚子市)  
織田良正「治す医療から治し支える医療への転換」
- ・ 講演会 (7月28日 佐賀市保健福祉会館)  
小宗静男「人工内耳で聞こえを取り戻そう」
- ・ 壱岐医師会 在宅医療研修会 (7月30日 長崎県ホテルステラコート太安閣)  
織田正道「ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化」
- ・ 第451回嬉野漢方のつどい (8月1日 ハミルトン宇礼志野) 中平圭「ペイン領域の漢方治療」
- ・ 地域戦略研究会 (8月9日 清川(佐賀県鹿島市))  
織田正道「超高齢社会における全国モデルを鹿島から！」
- ・ ゆうあい市民公開講座 (8月10日 鹿島市生活生涯学習センターエイブル)  
中村淳「祐愛会織田病院の乳がん治療 ～検診から手術・再建まで～」
- ・ 三銃士勉強会 (9月13日 佐賀大学医学部附属病院)  
山下駿ら「臨床予測ルール (Clinical Prediction Rule) ～そのルール、本当に適用して良いですか?～」
- ・ 第19回日本病院総合診療医学会学術総会 (9月15日 佐賀市文化会館)  
織田正道「ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化」
- ・ 鹿児島県地域医療構想研修会 (9月19日 鹿児島県医師会館4階大ホール)  
織田正道「地域医療構想の具体的対応方針」
- ・ 第61回全日本病院学会in愛知 (9月28日 名古屋国際会議場)  
織田正道「地域医療構想調整会議の現状と、これから」
- ・ 佐賀大学4年生講義 (10月1日)  
西山雅則「地域包括ケアと医療」
- ・ 褥瘡地域勉強会 (10月3日)  
西純平「褥瘡の診断」
- ・ 第59回全国国保地域医療学会 (10月4日 長崎ブリックホール)  
織田良正「地域から発信する未来の医療・介護の形」
- ・ 鹿島商工会議所女性会 健康促進セミナー (10月24日、鹿島商工会議所)
- ・ 福岡県私設病院協会 11月研修会 (11月9日 電気ビル共創館3FカンファレンスA)  
織田正道「ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化」
- ・ 新潟県病院協会 経営改善研究会 (11月12日 ホテルイタリヤ軒3階「サンマルコ」)  
織田正道「地域医療構想の具体的対応方針」
- ・ HOSPEX Japan 2019 (11月20日 東京ビッグサイト)  
織田良正「地域医療の現場から発信するICTの活用法」
- ・ 第15回在宅医療推進フォーラム (11月23日 東京ビッグサイト会議棟7階国際会議場)  
織田正道「急性期医療における適切な認知症ケアの提供 DCU(Dementia Care Unit)の試み」
- ・ 第20回病院の経営を考える会 (11月29日 品川インターンティーホール)  
織田正道「～医療と社会をデザインする～ICTを活用し

修了者の活動～臨床推論に基づく看護実践～

溝上修平「一般急性期病院における認知症合併患者への対応～Dementia Care Unit (DCU) 開設と認知症ケアサポートシステムの開発～」

- ・第61回全日病学会in愛知(9月28・29日 名古屋国際会議場)

谷口繁樹 シンポジウム

「地域急性期病院における看護師特定行為研修修了者の活動～臨床推論に基づく看護実践～」

久本由香「看護動線からみたIOTを活用した夜間業務の変化」

山口賢太「身体拘束ゼロへ向けた当院での取り組み～医療安全管理者の視点から～」

小柳有里「行動・心理症状(BPSD)を発症した患者のDementia Care Unit(DCU)入室前後の睡眠・覚醒リズムの変化」

平田美帆、中根知子、西嶋利光「当院での嚥下外来における摂食嚥下障害患者の分析」

原和行「MBC(メディカル・ベースキャンプ)とIoTを活用した在宅支援の取り組み」

- ・第17回医療法人天心堂志田病院研究発表会(10月19日 嬉野社会文化会館リパティ)

田中真悟「退院直後の訪問リハビリテーションの実施」

## 【講演・講義】

- ・佐賀大学看護学科講義(1月11日)  
市丸徳美「老年看護—介護老人保健施設における看護師の役割」
- ・在宅医療・介護市民公開講座(2月16日 武雄杵島地区医師会)  
神代修「入院医療から在宅医療へ、安心して自宅で過ごすための取り組み～住み慣れた地域でいつまでも」
- ・風のガーデンの会(2月17日 鹿島市「市民交流プラザかたらい」)  
石井大輔「こんなこともできる在宅サービス」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(2月18・25日、3月4日)  
神代修「保健・医療・福祉のしくみ」
- ・認知症サポーター養成講座(2月26日)  
北川英俊、野中繁昇「認知症を理解し地域で支えよう!!!」
- ・平成30年度 佐賀県認知症対応型サービス事業管理者研修(2月27日)  
北川英俊「適切なサービス提供のあり方について」
- ・佐賀県介護福祉士会支部研修(3月8日 武雄市「橋公民館」)  
石井大輔「原点回帰～介護とは～」
- ・第4回若手セラピストによる呼吸リハビリテーション研修会(5月8日 佐賀県医療センター好生館)  
石神優太「呼吸器系の解剖・生理について」
- ・2019年度介護スキルアップ講座(5月17日アバンセ)  
石井大輔「介護記録の書き方」
- ・嬉野高校非常勤講師  
(5月27日、6月6日・10日・17日・24日、9月19・26日・30日、10月3日 嬉野高校)  
石井大輔「生活援助技術」
- ・佐賀県看護協会「看護師のクリニカルラダー(看護協会版)研修」(5月28日)  
原崎真由美「クリニカルラダー導入と活用」  
石井大輔「生活援助技術」
- ・認知症サポーター養成講座(5月29日 織田病院)

例) 佐賀救急医学会雑誌 第5巻1号

- ・織田良正「地域から発信する未来の医療・介護の形～祐愛会織田病院での取り組み～」  
佐賀救急医学会雑誌 第5巻1号
- ・Masaki Tago, Risa Hirata, Yoshimasa Oda, Naoko E Katsuki  
「Buttock claudication: what induces pain only in the left buttock on every movement?」  
BMJ Case Rep 2019;12:e231271
- ・佐藤建「高齢者の胆のう捻転症に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行し得た二例」  
佐賀救急医学雑誌第5号(2019年6月)
- ・Egawa N, Nakamura J, Manabe T, Iwasaki H, Noshiro H. Incidence of postoperative complications in transabdominal preperitoneal repair for groin hernia is influenced by poor performance status rather than by old age. Ann Gastroenterol Surg 2019; 3(3): 318-324.
- ・Yukimoto M, Yamaguchi K, Nakazono T, Egashira R, Nakamura J, Matsumoto Y, Kimura H, Yamamoto M, Irie H. A mass forming pseudoangiomatic stromal hyperplasia: Imaging findings with histopathologic correlation. Breast J 2019; 25(3): 495-497.
- ・中村淳、中村宏彰、佐藤建、米満伸久、伊山明宏。浸潤性乳管癌が併存した83歳良性葉状腫瘍の1例。日本臨床外科学会雑誌 2019; 80(10): 1813-1818.
- ・監訳 内藤俊夫、翻訳 山下駿ら「身体所見のメカニズム—A to Zハンドブック」原書2版 丸善出版
- ・谷口賢一郎、織田良正、乗田浩明「右室中隔ペーシングの短期的成績」  
日本不整脈心電学会誌『心電図』Vol.39 No.4

## (コ・メディカル)

### 【学会(研究会)発表】

- ・第8回言語聴覚士協会九州地区学術集会in佐賀(1月19・20日 佐賀県立アバンセ)  
松枝知香、平田美帆、中根知子、大塚拓実、柴宮夏子、西嶋利光「重度褥創患者へ多職種で介入することにより早期退院が可能となった症例」
- ・第34回日本環境感染学会総会学術集会(2月22日神戸国際会議場)  
江口美美子「多職種で取り組んだ耐性菌対策」
- ・第37回佐賀県看護研究学会(3月10日 ゆめぷらっと小城)  
筒井久美子、増田恵理子、鶴丸直子「PONV(postoperative nausea and vomiting)術後悪心・嘔吐の現状調査」
- ・第2回村藤広域部症例検討会(3月8日 白石共立病院)  
高木俊充「非ホジキンリンパ腫の症例に対するリハビリテーション」
- ・第1回村藤広域部症例検討会(5月24日 白石共立病院)  
駒井亮司「両下肢熱傷に対するリハビリテーション～在宅復帰に向け多職種連携を図った症例～」
- ・第21回日本医療マネジメント学会学術総会(7月19・20日 名古屋国際会議場)  
溝上修平「認知症対応ユニット開設後3年間の取り組みDementia Care Unit(DCU)」
- ・第42回佐賀救急医学会(9月21日 肥前精神医療センター)  
谷口繁樹「地域急性期病院における看護師特定行為研

- 久本由香「災害支援ナースの活動の実際」
- ・佐賀県看護協会インターネット配信研修演習担当(11月5日・6日)
  - 市丸徳美「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」
  - ・嬉野医療センター附属看護学校講義(11月8日・15日)
  - 市丸徳美「高齢者福祉施設における看護師の役割」
  - ・認知症サポーター養成講座(11月10日 森研修センター)
  - 北川英俊、神代修「認知症を理解し地域で支えよう!!」
  - ・佐賀大学医学部4年生「医療社会法制」講義(11月19日)
  - 江口利信「社会福祉～MSWの機能・役割、他職種連携～」
  - ・認知症サポーター養成講座(11月20日 納富分公民館)
  - 神代修「認知症を理解し地域で支えよう!!」
  - ・第21回ゆうあい公開セミナー(地域嚙下サポート勉強会)(11月21日 鹿島市生活生涯学習センターエイブル)
  - 中根知子「食事のポジショニングについて」
  - ・介護講座「専門職向け講座」(11月21日 佐賀県在宅生活サポートセンター)
  - 石井大輔「介護過程②介護計画書と評価について」
  - ・佐賀県介護福祉士会西部支部研修会(11月25日)
  - 市丸徳美「認知症の理解-症状別の関わり方を学ぶ-」
  - ・認知症サポーター養成講座生涯学習センター(11月26日 鹿島市生活生涯学習センターエイブル)
  - 石井大輔、光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!」
  - ・佐賀県認知症対応型サービス管理者研修講義(12月4日)
  - 北川英俊「適切なサービス提供のあり方について」
  - ・認知症サポーター養成講座(12月11日 南川公民館)
  - 神代修「認知症を理解し地域で支えよう!!」

## 【論 文】

- ・原和行「MBC(メディカル・ベースキャンプ)経過報告～IoTを活用した室温管理への取り組み～」  
編集・発行 公益社団法人 全日本病院協会  
全日本病院協会雑誌(第三十巻第一号 第60回全日本病院学会in東京)
- ・原崎真由美・織田正道「地方の中小病院に求められる看護職の育成」  
医学書院 病院78巻10号
- ・看護部「患者を生活の場に帰す-自分らしく最後までを支える」  
看護協会出版会 看護2020年1月号『グラフ』
- ・福田望「Dementia Care Unit(DCU)開設後のアウトカム評価～8つの入院後評価項目による検証～」  
第60回全日本病院協会雑誌第30巻1号
- ・吉原沙紀「退院支援入力システムの効果的な運用による業務改善」  
第60回全日本病院協会雑誌 第30巻1号

## 【ゆうあい一座公演実績】

- 5月22日(休) 西牟田公民館 あやめ会(独居老人10人程度の食事会)
- 7月10日(休) 井手公民館 井手老人会
- 9月15日(日) 山浦公民館 山浦老人会
- 10月16日(休) 白石町総合センター 白石町老連女性部研修
- 11月10日(日) ゆめプラットフォーム 介護の日 一般客
- 12月 8日(日) エイブル 鹿島市盛年の集い(65歳 200名)

- 石井大輔、光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!」
- ・嬉野医療センター附属看護学校講義(6月5・12・26日、7月24日、9月4・11・18日)
  - 小森ヒロ子「在宅看護方法論」
  - ・2019年度介護労働講習(介護実務者研修)(7月4日・19・24日、9月2日 サンシティビル)
  - 石井大輔「実践講習:生活支援①・②・④・⑤」
  - ・デイサービス結の舟研修会(7月12日 結の舟)
  - 石井大輔「介護記録について」
  - ・佐賀県介護福祉士会支部研修(7月18日 こそす館)
  - 石井大輔「原点回帰～介護とは～」
  - ・認知症サポーター養成講座(7月24日 真崎公民館)
  - 石井大輔、光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!」
  - ・佐賀県看護協会 施設代表者会議(7月27日)
  - 谷口繁樹「特定行為研修修了者としての外来での活動～臨床推論に基づく看護実践～」
  - ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(9月～10月・7回)
  - 久本由香「老年看護学概論」
  - ・2019年度介護労働講習(介護実務者研修)(9月6日 西九州短期大学)
  - 石井大輔「生活支援技術Ⅱ」
  - ・介護労働安定センター実務者研修(9月9日 西九州大学短期大学部)
  - 光武耕治「生活支援技術Ⅱ(実技)」
  - ・オストメイトの勉強会(9月14日)
  - 吉原美津子「日常生活とストーマケア」
  - 野田由香里「日常生活とストーマケア 災害時の対応について」
  - ・労協協主催「第24回介護職員初任者研修」(9月15日 佐賀県労働会館)
  - 石井大輔「生活と家事」
  - ・第20回日本医療情報学会看護学術集会ランチョンセミナー(9月28日)
  - 原崎真由美「ICTシステムやセンサーデバイスの導入による看護業務の変化」
  - ・佐賀大学大学院医学系研究科看護学専攻講義(10月1日)
  - 市丸徳美「老年看護特論-パーソン・センタード・ケア」
  - ・佐賀大学全学教育科目「インターフェース科目」講義(10月2日)
  - 江口利信「医療現場における行動科学～MSWの視点から～」
  - ・佐賀県看護協会2019年度看護職再就業支援研修会(10月2日)
  - 山口賢太「医療安全～与薬業務・転倒予防策について～」
  - ・第20回ゆうあい公開セミナー(地域褥瘡勉強会)(10月3日 鹿島市生活生涯学習センターエイブル)
  - 本村拓郎「拘縮が強い方の褥瘡予防」
  - 渕明子「褥瘡と栄養」
  - ・佐賀県看護職員認知症対応力向上研修(10月6日・16日・30日)
  - 市丸徳美「事例検討、地域連携、自施設の現状と人材育成計画策定」
  - ・介護講座「専門職向け講座」(10月17日 佐賀県在宅生活サポートセンター)
  - 石井大輔「介護過程①アセスメントについて」
  - ・認知症サポーター養成講座(10月23日 七浦小学校)
  - 神代修、石井大輔、光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!」
  - ・佐賀県看護協会「災害支援ナースの育成」(10月23日・24日)

# ゆうあい研究発表会・忘年会

栄養食事サービス部 大島 悠加

令和元年11月28日に病院、30日にエイブルにて、第24回ゆうあい研究発表会が開催されました。今回は『業務の効率化～見直そう今の業務～』をテーマに、織田病院12題、ゆうあいビレッジ5題、委員会取り組み報告2題、計19題の発表が行われました。様々な視点から改善に取り組まれており、利用者様、患者様へのサービス向上、職員の満足度向上に繋がる取り組みばかりでとても勉強になりました。特別講演では西山副理事長より



『QC活動～振り返りと今後の展開』について講演をしていただきました。西山副理事長の講演や今回のQC活動で残った課題、学んだことを活かし来年度も活動していきたいと思えます。



忘年会は12月21日に、今回初めてホテルニューオータニ佐賀にて開催されました。乾杯の前に織田理事長にこれからの法人の方針について講演をしていただきました。人口減少とともに後期高齢者の割合が増加していくこれからの時代に、高齢者が自立して生活し、健康長寿社会を目指すために私たちがどのように変わっていかねばいけないのかを改めて確認することができました。また、平均年齢71歳(最高齢85歳)で結成されたチアダンスグループ「ジャパンポンポン」の映像には衝撃を受けました(笑)。

講演後は研究発表会の表彰が行なわれ、病院からはリハビリテーション科、ゆうあいからは1階療養棟が優秀賞を受賞されました。また今年度の活動において、優れた個人や部署に送られる特別賞と年間MVP賞は、医事課の冨永さん、看護部が受賞されました。

授賞式の後には、院長の乾杯の発声で宴会がスタートし、和洋折衷のコース料理で例年とは違った雰囲気を楽しむことができました。新人職員やEPAの方々、ゆうあい一座の皆さんの楽しい余興や演奏、豪華賞品が当たる抽選会で盛り上がり、今年を締めるにふさわしい会となりました。また、色々な部署の方々と交流しお互いの結束も深まったと思えます。



来年度も法人方針に向けた各分野、各部署、個人の目的を明確にし、祐愛会全体が『ONE TEAM』となり頑張っていきたいと思います！！



今年もONE TEAMでサービスの向上、地域に根ざした医療・介護を提供していきましょう。

当院でもスマートベットのシステムやMBCにIoTを活用しており、今後も更に5Gなどが実装されれば、未知なる挑戦も可能になってくると考えられます。

昨年5月1日に新天皇が即位され新元号を迎え「平成」から「令和」に変わり既に半年以上が経過しました。平成を振り返るとインターネットの発達から現在ではスマートフォンやタブレット端末の普及により情報化社会の発展が顕著に見られ、その進化はまだまだ続いています。

新年あけましておめでとうございます。

## 編集後記

手術室内視鏡センター 竹内雄大